

石垣島アースライド2011

大会概要

アースライドは自転車を通し仲間や地元の人々との交流や美しい自然、文化を楽しんでもらうことを目的にしたロングライドサイクルイベントである。40km～120kmの距離を設定された時間内で、自分の脚力やコンディションに合わせてそれぞれのペースで楽しむことができる。

石垣島アースライドは信号のない道を走ることができる日本最南端のサイクルイベントとして参加者の中でも人気のあるイベントである。

(1) 実施時期

2011年11月19日(土)～2011年11月21日(月)

(2) 実施場所

沖縄県 石垣島

アースライドコース	舟蔵公園～船越漁港	距離：40km・60km・100km
ギバリヨー！コース	船越漁港～平久保崎灯台	合計距離：125km

事業の概要

<国内向け>

国内での大会認知度向上を図り、大会の規模拡大に繋げるため、以下の事業を行った。

国内モニターツアー 国内メディアファムトリップ

<海外向け>

2012年の新石垣空港開港に向けて、以下の国際化対応事業を行った。

「外モニターツアー 海外旅行会社・メディアファムトリップ 多言語化運営対応

実施成果

- ・国内モニター 10名
- ・国内メディア 10名(サイクルスポーツ、バイシクルクラブ、シクロワイヤード、タイムアウト東京、スポプレ、フジテレビ)
- ・海外モニター(台湾) 10名
- ・海外メディア・旅行社
 - <台湾> 10名 1名前日キャンセル
 - (Az 旅遊生活 2名、単車誌 1名、捷安特旅行社 1名、雄獅特旅行社 1名)

- <韓国> 2名(自転車生活)
<中国> 2名(上海古籍出版社)

以上 計29名

日程

【海外メディア・海外モニター】

11月18日(金)

午後 空路石垣島入り。

11月19日(土)

9:30~ 石垣島観光協会にて意見交換会
(観光協会:会長=宮平様、副会長=大松様、兼島様、新城様、高嶺様、濱田様)

10:30~ 石垣島島内観光(唐人墓、やいま村、みねや工房、川平湾)

11月20日(日)<アースライド当日>

7:00~ 大会スタート海外メディア スタート、エイドステーション等取材

16:00~ サンセットパーティー

11月21日(月)

午前 台湾モニター、台湾メディア 帰国

終日 中国・韓国メディア 離島観光(西表島、由布島、竹富島)

11月22日(火)

午前 中国・韓国メディア空路帰路の途へ

【国内メディア、国内モニター】

11月18日(金)

午後 空路石垣島入り。

11月19日(土)

終日 国内モニター 石垣島島内観光(唐人墓、やいま村、みねや工房、川平湾)

11月20日(日)<アースライド当日>

7:00~ 大会開始 国内メディア スタート地点、エイドステーション、川平湾等取材

16:00~ サンセットパーティー

11月21日(月)

終日 国内メディア 西表島アースライド取材

国内モニター 自由行動

11月22日(火)

午前 自由行動

午後 空路、羽田へ。到着後、解散。

今後のメディア掲載予定

<台湾>	単車誌	1月15日発行分掲載
<中国>	旅遊天地	1月1日発行分掲載
<韓国>	自転車生活	12月28日発売の1月号に掲載

参考 今年度総参加者数 = 472名

県内：53名

県外：404名

海外招聘モニター参加者数：15名

実施報告(イベントの様子)



前日エントリー



スタート地点の様子



エイドステーション



国内・海外モニターツアーの皆さま



エイドステーションでの様子



エイドでの参加者



サンセットパーティー



離島観光

総括（課題と展望）

< 課題 >

- ・石垣島まで足を運んでもらうための、経済的・時間的・心理的な障害
- ・大会自体の魅力向上

< 展望 >

2013年には新石垣空港が開港し、今後さらに海外からの需要拡大が見込まれる。

本年度は、アクセスが良く継続的な集客が見込める台湾・中国・韓国のアジア3ヶ国にまずターゲットを絞ったが、次年度以降は段階的に各種国際対応を進めていきたいと考えている。

また大会の魅力を上向していく上では、今後関係機関や同種のイベントで連携して取り組んでいくことが大事である。また大会運営の面やレンタルバイク等に関しても改善が必要である、気軽に参加できる体制を整えることが重要である。

離島である石垣島で開催される本イベントは、沖縄の中でも更に厳選されたスポーツ観光リゾートとして、その最高のサイクリング環境を世界にアピールできる絶好の機会となる。国際性の高い参加型サイクリングイベントは国内でも未だ例が少なく、近隣アジアからのアクセス性を活かし、日本を代表するインバウンドスポーツ観光として大いなる可能性を秘めている。

今後も本イベントのブランド価値向上によって、石垣島や沖縄全体の価値向上に繋げていきたい。